

笑殺集団リリパット・アーミー第3回公演 セメントラヴァーズ

1987年8月3日(月)〜5日(水) 藤町ミュージアムスクエア

キャスト	若木え美	中島らも
メイタン	牧野恵美(賣名行為)	藤沢浩三
タオ	升毅(賣名行為)	吉本たもつ
霧乃峰	キッチュ	ひさうちみちお
江青	立原啓裕(賣名行為)	垂水章
王洪文	加納真士	杉崎真之助
張春橋	中島らも	ジーニアス黒
姚文元	チ子松村	名城アバ
李白	ガンジー石原	カネテツデリカフーズ株式会社
寒山	ひさうちみちお	
拾得	ヘラルド吉鶴	
ジャイアント・パンダ	鮫肌文珠	
悟空	木本雄一郎	
媚薬運	桂吉朝	
サンパプロ封筒	桂吉朝	
みち	わじわみち	

笑殺集団リリパット・アーミー第4回公演 フラワン殿下の失脚と逃走

1988年2月22日(月)〜24日(水) 藤町ミュージアムスクエア

キャスト	中島らも	中島らも
院長	若木え美	藤沢浩三
若木	升毅(賣名行為)	吉本たもつ
うどん屋	牧野恵美(賣名行為)	ジーニアス黒
ことめ様	立原啓裕(賣名行為)	若木え美
老人C	キッチュ	ひさうちみちお
老人D	ひさうちみちお	垂水章
老人E	鮫肌文珠	杉崎真之助
看護婦A	ガンジー石原	名城アバカンパニー
看護婦B	木本雄一郎	カネテツデリカフーズ株式会社
茂兵次	桂吉朝	
小木野宮樹		

スタッフ

脚本・演出	中島らも
照明	藤沢浩三
音響	吉本たもつ
舞台美術	ジーニアス黒
衣裳	若木え美
イラスト	ひさうちみちお
写真	垂水章
宣伝美術	杉崎真之助
レコーディング協力	名城アバカンパニー
協賛	カネテツデリカフーズ株式会社

ものけメンバーからの証言 鮫肌文珠

「文珠！ええかげんにしや!!」  
 ——もう36歳になろうかというスエオッサンのこの私が未だにその人に叱り飛ばされる夢を見て全身汗グッシヨリで目が醒める。ハツと飛び起きて周囲を見回せば、そこは自分ん家のベッドの上。「あつ、夢やったんや」  
 その声の主こそ、今を去ること15年前、中島らもさんと一緒にリリパット・アーミーを旗揚げした、小さな巨人「わかぎえん」(以下、いつも呼んでいるようにふっことさん)その人である。  
 “当時売れっ子コピーライターだったらもさんが『メディアにおけるスカタンなお笑い上のタブー』にほとほと愛想を尽かして『舞台やったら何の規制も無いやろ』とおつぱはじめた笑殺集団。”  
 しかし、ここでもサンは初歩的ミスをしてしまふ。演劇をやろうというのに、その旗揚げメンバーのほとんどが経験ゼロ。学会でも「木」の役しかやらせてもらえなかつたやうな芝居に関してはずのシロートばかり集めてしまったのだ！(私もその中の一人)イラストレーター、広告屋、編集者、果ては元ヤンキーまで「タバコとペンより重いもんは持ったことおまへんなアアア、囁く」ものけド素人集団に芝居をやらせる——これはいわば「現地から連れて来たジンバブエのコメディアンにいきなり紅白歌合戦の白組の司会をやらせる」ぐらいむずかかつた事は、想像するだに難しくない……。  
 今でも覚えてる。開演一時間前の15年前の楽屋。なにぶんにもド素人ゆえ自分で役者の基本中の基本「メイク」をする事さえまならないものけども、が、まるでエサのミミズをもらおうと精一杯首を伸ばすスズメの雛のように、ふっことさんの前に「メイク早よしてんかアア」と列をなして並んでいた姿を、他の劇団ではけしてありえないそんな情けない光景が、リリパット初期にはごく当たり前に公演の風物詩と化していたのだ。  
 勢い、そんな異常な状況の中、大和撫子の鑑(？)ふっことさんといえども思わず語気を荒げて、「ものけどもに湯を入れざるを得なかつたわけ。」  
 「キッチュー」「ガンジー」「おっちゃん!!」(らもさんの事ね)——まあ毎度毎度怒るの怒らんの。私もこの頃、一生分叱られましたね。最後は、らもさんの顔面に張り手が飛び、かけていたグラサンが宙を舞う頃なんとか開演にこぎついていた気がする。

今回の2作品は、そんなリリパット黎明期「ふっことさんVSものけ軍団」怒りの鉄拳時代の作品である。ことに『セメントラヴァーズ』の方はリリパットの原石だらけの内容で、改めて読み返してみると発見が多い筈だ。  
 そして、このらも印12%のギャグ芝居の陰で一人の元演劇少女が、ものけどもをシバキ倒しながらすべてを支えていたことを私はここに記録しておきたいのである。  
 (放送作家)